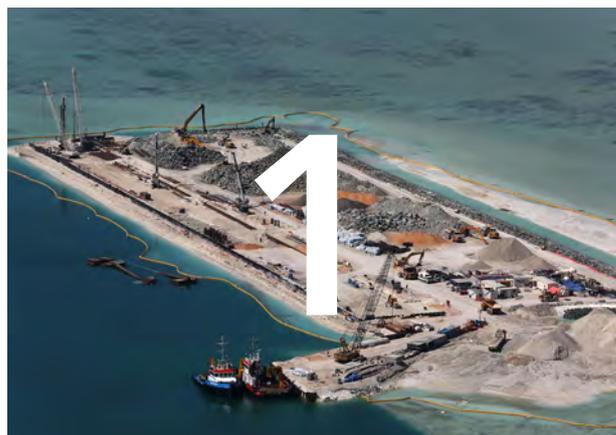


コスモの ユニーク ポイント



中東産油国との 信頼関係に基づく 石油開発・安定生産

ハイル油田がフル生産に

- 約50年の安定生産を基盤としたアラブ首長国連邦（UAE）アブダビ首長国との信頼関係をベースに、低リスク・低コスト開発を実現
- アブダビ石油は2012年の権益延長（30年）と共に、既存3油田と同規模の新鉱区ハイルを取得。ハイル油田は2017年11月に生産開始し、2018年1月よりフル生産を継続
- ハイル油田は既存の原油処理・貯蔵・出荷設備などの共有で投資を抑制（概算▲3~4億ドル）しており、生産量増加により、単位当たり操業コスト低下を見込む

リスク耐性

- 低油価での収益力▶
2016年度1Q（1-3月）はドバイ原油\$30/Bの環境下、黒字確保
- 既発見・未開発の油田（ハイル含む）による低コストでの開発の実現

成長戦略

- 各油田におけるフル生産の継続と競争力強化に向けた厳選投資
- MIC（旧IPIC）出資先セブサ社※との戦略的包括提携、アブダビ国営石油会社と3社で新規油田開発を検討
※スペインの大手総合石油会社

長期の安定生産体制

- UAE建国前に権益を取得し、約50年の安全操業・安定生産
- UAE（アブダビ）、カタールでの長期かつ安定的な原油生産
- 文化面（日本語教育他）・環境面（ゼロフレア他）などでも両国に貢献



石油事業の 収益最大化

収益拡大への取り組み

- IMO規制※を契機に、堺製油所のコーカー（重質油熱分解装置）能力増強に伴う収益油種の拡大
- 高稼働維持により世界標準以上の競争力を確立
- 他社とのアライアンスを活かし競争力を強化（千葉・四日市でのアライアンス、供給先の拡大等）
- 石油化学事業とのシナジー創出

※国際海事機関 (IMO) が決定した、船舶の燃料油に含まれる硫黄分濃度規制の強化。

新連結中期経営計画における取り組み施策

1 重質油分解能力向上等

堺製油所コーカー能力増強等
千葉製油所パイプライン活用
↓
収益油種への集中

2 稼働率向上

計画外停止削減
製油所定修期間の短縮

3 石油化学事業との連携

未利用留分の活用
↓
収益機会の拡大

4 コスト削減

装置の省エネ運転
戦略購買、物流合理化



再生可能エネルギーを 次の柱へ

風力発電事業を拡大

- 早期に陸上風力サイト50万kWへの拡充をめざす
- 陸上適地飽和後の事業拡大のため、当社グループの強みであるオペレーション&メンテナンスを活かしつつ洋上風力発電へ早期に進出
- 次代の成長の柱とすべく、投資を実施

当社グループの特徴（強み）

風力発電事業（1997年創業）のパイオニアである
エコ・パワー社を2010年にグループ化

開発、建設、運営、メンテナンスをグループ内で実施することで高いレベルの利用可能率（90%以上）を実現

全国展開により地域毎の風況変動リスクを低減し、
収益の安定性を確保

陸上サイトの拡大に加え、洋上サイトプロジェクトへの
参画など、長期的な事業拡大をめざす